

はるかな尾瀬

— 目 次 —

- 02 特集
よみがえれ！尾瀬の自然
- 04 リレーエッセイ
総合学術調査と池塘研究
- 06 現地情報
- 07 平成23年シーズンの尾瀬についてのお知らせ
- 08 連載コラム
 - ①楽しかった～！また来たい！
 - ②尾瀬を楽しむ10ヶ条
 - ③スノーシューのすすめ
- 10 エッセイ尾瀬好日
 - ①尾瀬の両生類あれこれ
 - ②残雪からボランティアへ
- 12 尾瀬ボランティア情報
- 13 TOPIX
- 14 尾瀬保護財団からのお知らせ



2011.3 vol.16
(財)尾瀬保護財団



燧ヶ岳から尾瀬沼を望む（5月上旬頃）

特集

よみがえれ！ 尾瀬の自然



今回は「植生復元活動」について、当財団が今年度取り組んだ事業及び受託事業の一部を紹介します。

多くの人が湿原を歩くことで、植物が踏み付けられていくと、植物は生えなくなり、やがて泥炭がむき出しとなり、乾燥が進み裸地化します。このような人為的な荒廃により、植物が生育できない状況となったところを、人の手により植物を回復させようとするのが植生復元なのです。

燧ヶ岳(熊沢田代) (環境省受託事業)

山頂北側に広がる傾斜湿原が作業地で、こも人の踏み込みや雨水・融雪水により一部が裸地化したところです。ここでの植生復元作業は4年目となります。専門家の意見やこれまでの作業結果を踏まえ、尾瀬内でも場所が違えば環境条件が異なるため、現場に適した復元方法を検討し、作業を実施しています。

現場周辺に自生する植物の種子を播くこと(播種)で植生の回復を図っていますが、前述の通り傾斜地であるため、種子の流失が懸念される箇所では、泥と種子を混ぜあわせ団子状にしたもの(泥団子と呼んでいます)を裸地部に埋め込む手法も採用しています。



▲ 敷設されたネットと網目の中の泥団子

また、乾燥している泥炭の状況も植物が生育しやすい環境へと変えていかなければなりません。そこで、水分を含むことで保湿効果を発揮するネットを敷設し、生育条件の向上を図っています。このネットは黄麻(ジュート)製の生分解するものです。

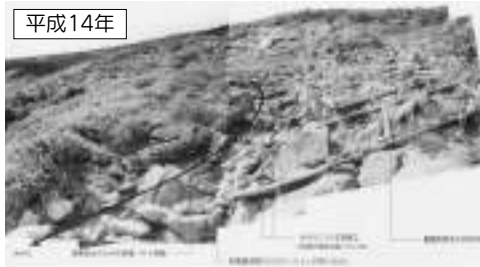
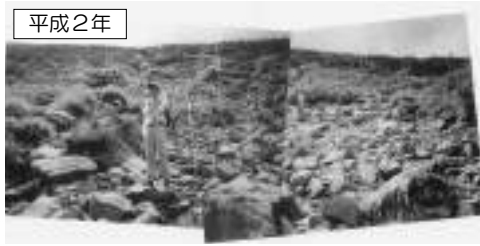
その他にも登山道からの流水等による洗掘を防ぐために、水の流れを変えるなどの制水措置なども行っています。まずは裸地部を「緑化」させることが目標で、その後は自然遷移によつて最終的に辿り着く、安定した植生状況(極相)になるのを長い目で見守ることとなるでしょう。



▲ 作業には丁寧さが不可欠、こちらは直播作業

至仏山

昭和41年から始まった尾瀬の植生復元は、「湿原の復元」という世界的にも類を見ない苦労の連続を繰り返し、「登山道のあり方や復元」という新たなステージへと移りつつあります。年間2万人を超える登山者が訪れる至仏山は、一部の登山道区間で「付け替えの是非」の検討を行っているところですが、ここでは尾瀬保護財団と群馬県が取り組んでいる、「至仏山Dブロック」の復元作業について紹介します。



Dブロックはこんな所

- ①山ノ鼻と至仏山頂の間
- ②標高約1,800m
- ③尾瀬ヶ原と燧ヶ岳が一望できる好展望地
- ④かつてはお花畑の広がる雪田植生
- ⑤登山道整備は平成以後



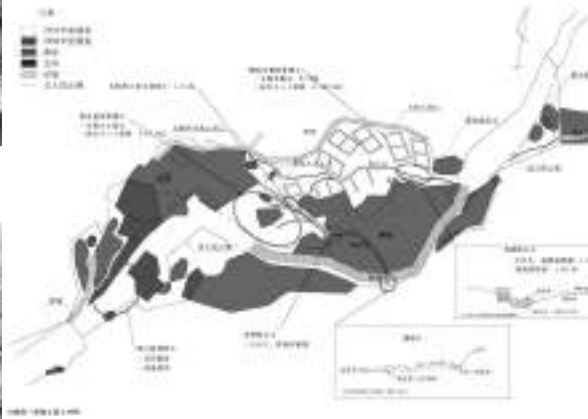
登山道が確定していないため、お花畑への踏み込みが、地盤環境の弱い雪田植生を急速に破壊。



緑化ネット敷設
(上:作業前、下:作業後)



平成22年 至仏山Dブロック作業平面図



土留柵の入替
(上:作業前、下:作業後)



水みち対策
右上:作業前
左下:作業後



横断排水
左上:作業前
右下:作業後



平成23年
いよいよ播種。そして・・・
当財団は今後も
尾瀬の復元に取り組めます



リレーエッセイ

「総合学術調査と池塘研究」

林 秀剛

斎藤晋先生からリレーエッセイを書くようにとの指名を何気なく受けてしまい、今、猛烈に後悔している。大学勤めの終わり頃、それまで続けてきた水商売（陸水生態学）から、獣道（クマの保護管理）に迷い込んでしまい、尾瀬は、”はるかな”存在となってしまった。大学勤めが終わって研究室がなくなると、資料を整理せざるを得ず、結果として、おぼろげな記憶にたよった思ひ出話しかできないことに気がついた次第。リレーの襷をつなぐだけになってしまったことをお許し願いたい。

私が、尾瀬に通ったのは、”尾瀬ヶ原総合学術調査研究”（以下、総合調査）の第2次（1977～79年）と第3次（1994～96年）。学生時代に在籍した都立大学の生態学研究室には、第1次総合調査（1950～52年）のメンバーだった宝月欣二先生、北沢右三先生、それに大島康行先生がおられ、

直接のご指導を受けた。1階下の化学の研究室には西條八束先生もおられた。先生方には、おりに触れて、尾瀬ヶ原のことはうかがっていたが、不勉強な私は、尾瀬ヶ原の研究が、どのような意義を持っていたかについて、当時は気がつかなかった。しかし、青森・八甲田山での野外実習（1958年）の際に、毛無岱の湿原に座り込んで、学生そっちのけで厳しい議論を展開していた先生方（学生は6人、先生方は10数人！）の姿が目につかぶ。尾瀬ヶ原を実際に訪れて、まず、思い出したのはその光景。先生方がご活躍された第1次総合調査は、尾瀬ヶ原が水没するか否かの問題を契機に実施されたことを知り、議論の中心に関心を持つべきだったと切実に後悔した。お名前を挙げた先生方には、今はもう確認することはできない。

もうお一人、第1次総合調査に加わっておられたのが倉沢秀夫先生。倉沢先生は、宝月先生、北沢先生とともに、「諏訪湖研究」グループの主要なメンバーであり、尾瀬ヶ原の調査にも加わっておられ、尾瀬ヶ原調査のさまざまな丸秘エピソードも聞かされていた。筆者は、1976年、倉沢先生に呼んでいただき信州大学に赴任し、間もなく、第2次総

合調査が始まった。倉沢先生の周辺に群がって？いた若者たちに声をかけてチームを結成。尾瀬ヶ原に多数存在している池塘の調査研究を通じて、尾瀬ヶ原成立の謎を解明しようということになった。池塘の化学的・生物的諸性状の記載、遷移過程における位置づけなどを明らかにし、尾瀬ヶ原の成り立ちを知ろうということである。当時は、各地の湖沼などの水質汚染が問題となっており、尾瀬ヶ原でも、山小屋などからの廃水による富栄養化が話題となっていたので、もともと人為の影響が少ないと考えられる中田代を中心に調査を行った。第1次総合調査から20年以上も経過しているので、それからの変化にも着目したが、水質などの化学的要因については、測定技術の進歩が著しく、直接の比較は不可能であった。これに対し、生物相については、比較可能と云うことで、できるだけ多くの池塘について、動植物プランクトンと底生動物についての種組成や現存量の把握に努めた。結果としては、良好な保全状況にあるといえる。

第3次総合調査の時代背景は、地球環境問題。酸性雨や地球温暖化現象が注目された。中田代の最高地点に位置し、天水のみで涵養

されている、尾瀬ヶ原で最大の水深（3.3 m）をもつ池塘No.28は、貴重な調査対象であった。地球環境の変動をモニタリングするための基礎的なデータの蓄積を心がけた。さらに、尾瀬ヶ原の起源と変遷過程を探るため、池塘内での堆積物を採取した。6〜10 mの柱状試料採取に成功し、珪藻殻や有殻アメーバの分析により、興味深い結果が得られている。この結果については、分析をされた、村上哲生さん（当時名古屋市環境研究所、現在は名古屋女子大学）ご本人にリレーしたいと思うが、いかがなものだろうか？

最後に、倉沢先生は、昨年4月1日、91才で亡くなられた。もう、あの独特な話法での尾瀬ヶ原調査秘話を聞くことはできない。ご冥福をお祈りする。



▲岸からのサンプル採取は釣り竿を利用
（第3次総合調査、1997年）



▲池塘上での採水（第3次総合調査、1997年）

筆者紹介

林 秀剛（はやし ひでたけ）

NPO法人信州ツキノワグマ研究会理事

元信州大学理学部教授

専門は陸水生態学

著書は「川と湖と生き物―多様性と相互作用

（共編著）」など

前号の斎藤晋氏（群馬県立女子大学名誉教授）よりリレーしました。

現地情報

原をわたる風だより 山の頂ビジターセンターより

「ビジターセンターや橋の除雪を行いました」

平成23年3月8日から10日までの日程で除雪に行ってきました。尾瀬の冬は大量の積雪があるのですが、冬の始めは積雪量が多くて、雪が締まってないので、大きな影響はないそうです。しかし、3月頃になると下層の雪が締まってきて重くなるので、毎年この季節に除雪に出かけるわけです。

今回は管理のための特別な許可をもらってスノーモービルで出かけました。3月8日は朝からとても良い天気。雪がともまぶしくて綺麗でした。途中雪がとも柔らかなところがりましたが、無事に山ノ鼻に到着。ビジターセンターの屋根からは、大きな雪庇が垂れ下がっていました。例年の同じ時期よりは雪が多いようです。早速除雪開始。気温は氷点下なのに汗が出て来ます。その後、尾瀬

ヶ原に出かけ、下ノ大堀川橋の除雪や各施設の点検を行いました。このときも雪が柔らかくて通行困難なところがありました。



▲大きく張り出た雪庇と格闘



▲雪の燧ヶ岳を背景に橋の除雪

2日目もビジターセンターや公衆トイレの除雪を行いました。午後からは激しく雪が降り始めました。明日下山できるかどうか心配しながらも、夜は夏…。

3日目は早朝からスノーモービルを通す道をつける作業を行いました。昨日からの雪は50cmほど積もって、雪がふかふかです。道をつける作業は予想以上に困難で、除雪隊がビジターセンターを後にしたのは午後3時近くになってからです。厳冬の尾瀬は、私たちに厳しい表情を見せてくれたようです。雪解けの季節がとも恋しくなりました。



▲例年どおり雪で埋もれた鳩待峠ボランティア詰所

【檜枝岐事務所の雪下ろし】

今年度の5月に開所した檜枝岐事務所（檜枝岐村立憩いの家、シーズン中のみ開館）の雪下ろし作業について報告します。

ガイドとして活躍されている地元の若手集団「楽ーRAKUー」さんに作業をお願いし、1月19日と2月14日に作業が行われました。

手際の良さに感心しつつも、雪国ならではの大変さを改めて感じました。



▲1月19日の作業の様子





平成23年シーズンの

尾瀬についての

お知らせ

公衆トイレ・キャンプ場

1 見晴公衆トイレと下田代キャンプ場

環境省では、合併浄化槽に亀裂が入り使用できなくなった見晴公衆トイレを工事します。工事期間中は仮設トイレ10基を設置します。また、その工事の影響で、平成23年シーズンは下田代(見晴) キャンプ場が閉鎖されます。

2 田代山公衆トイレ

田代山湿原(山頂)の公衆トイレは工事のため利用できません。猿倉登山口と馬坂峠登山口の公衆トイレを利用してください。また、入山前にトイレを済ませることも、携帯トイレの携行をお願いします。

尾瀬認定ガイド

尾瀬の自然の魅力、貴重さ、自然を守ることの大切さを伝え、安全管理や行程管理ができる尾瀬認定ガイドを環境教育やエコツーリズムの推進に是非ご活用ください。

[登録者数]

- ・尾瀬自然ガイド 216名
- ・尾瀬登山ガイド 39名

(平成23年3月末現在)

至仏山

植生保護の観点より、例年実施している残雪期の登山道閉鎖については、昨シーズンから閉鎖期間が次のとおり変更されていますのでご注意ください。

〈登山道閉鎖期間〉

5月7日～6月30日

その他にも、至仏山には、植生保護及び安全上の観点より様々なルールがありますので、注意して利用してください。(詳細は、尾瀬保護財団ホームページ等でご確認ください)

交通規制

交通規制は、鳩待峠・沼山峠とも平成22年度と同程度の内容です。(詳細は、尾瀬保護財団ホームページ等でご確認ください)

フィールド講座の開催

尾瀬保護財団では、今年も「尾瀬を知る」フィールド講座を開催します。尾瀬の隠された魅力を発見し、より充実して尾瀬を感じるためにも是非ご参加ください(詳細は、尾瀬保護財団

ホームページで4月頃に掲載します)。

財団ホームページ

1 山ノ鼻ライブカメラの設置
シーズン中、山ノ鼻地区のライブ映像をご覧いただけます。

2 携帯サイトの開設

「今朝の山ノ鼻」を言む各種お知らせやライブ映像などを配信します。
URL: <http://www.oze.fnd.or.jp/main/mobile/ozemobile.html>



尾瀬山開き

開催日時: 5月24日(火)

開催場所: 福島県檜枝岐村御池駐車場

※この山開きはセレモニーであり、周辺道路の冬期閉鎖が解除されるのは4月下旬頃です。春先の入山には十分な装備を整えてください。

ビジターセンター開所

○山の鼻ビジターセンター

5月15日(日)【予定】

○尾瀬沼ビジターセンター

5月1日(日)【予定】

その7 楽しかった～！また来たい！〈藤堂光樹（尾瀬自然ガイド）〉

（尾瀬の自然案内人 Tel 0466-33-5360）

A1 「時には過去へ、時には未来へ、時間を旅して楽しむことです」。見晴から尾瀬沼方面へ少し登った辺りに「大正元年 星」と刻まれたブナがあります。今から100年前の時代にタイムスリップして、星さんの暮らしやここにきた目的、どんな気持ちでこれを記したのか？その時代にそこはブナの森だったのだろうか？人が全く手を入れなくても自然は変化します。今の姿から過去や未来の尾瀬を想像すると、尾瀬歩きが数倍楽しくなります。

A2 尾瀬沼のほこりに点在する小さな湿原で、何も考えずに過すのがおススメ。オコジョの発見例が多いのもこの辺りです。ワタスゲが大好きなので、6月下旬から7月中旬の季節もおすすめてです。梅雨時でハイカーもまばらな静かな湿原を、小さな高山植物が彩ってくれます。静寂な時が流れる尾瀬の自然と暮らす人々、いつもと違った景色や人に出会えるような気がします。

A3 「ボイスハンリムバー」です。尾瀬でハチやヘビの被害はあまり聞きませんが、ブヨに刺された方は多いのでは？強烈なかゆみと腫れが起こり、悪化すると発熱・歩行困難になることもあります。刺されてから2分以内に吸引すると、症状を軽減できます（個人差あり）。あくまでも応急処置なので

で、下山後に病院へ行くことはお忘れなく！

A4 当時3歳半と2歳の息子を初めて尾瀬に連れてきた時のこと。秋の鳩待峠く牛首の往復で、「となりのトトロ」の世界だったとんぐりが空から降ってきたこと、どんぐりが茶色でなく鮮やかな緑色をしていたこと、葉っぱがめると綺麗なこと、きのこがたくさんあること、見るもの全てが驚きだったよです。あれから3年、息子たちは尾瀬を好きになり、今では「夏の思い出を口ずさむでくれます」。

A5 「楽しかった～！また来たい！尾瀬ガイドになって10数年、色々なガイドングを行ってきたが、行き着いたのはこの一言。ガイドの目的は人それぞれだと思いますが、どんなに自然保護を訴えたり、植物を詳しく説明しても、「楽しかった～！また来たい！」と、感じていただけないと全このつながりはなくなってしまう。どんな時でもこの一言を言われるようなガイドを目指していきたいと思っ



その8 尾瀬を楽しむ10ヶ条 〈長内覚（尾瀬自然ガイド・尾瀬登山ガイド）〉

（尾瀬ガイドツアーズネット Tel 0241-65-1755 URL <http://www.aizu-ns.net/ns/>）

A1 10項目でまとめてみました。

①ガイドを依頼（安主に楽しい話が聞けます）、②デジカメで撮影（記念になる）、分らないお花の名前を「ジターセンター（V.C.）で聞くのに便利）、③においをかぐ（印象・記憶に残ります）、④気に入った場所何か食べる、⑤交流する（山小屋、ガイドなど）、⑥出来るだけのんびり（歩いた距離の達成感捨てましょう）、⑦V.C.で質問しまくる（疑問や知りたい事に答えてくれます）、⑧気の合う仲間と歩く、⑨気に入った場所でおしゃべり（楽しくなります）、⑩テーマを絞り込む（お花、工口、生態系、癒し、健康など）

A2 私のベスト5は、「中田代（至仏山）と懸ヶ岳が両方見える」、「沼尻休憩所（尾瀬沼の水面の輝きが美しく理由もなく落ち着く）」、「下田代（360度の広大な尾瀬を楽しむ）」、「元長蔵小屋付近のテラス（人が少なく落ち着く癒しの場）」、「大清水平（ささいな事を忘れるほど雄大）」です。

A3 私のお役立ち10アイテムは、「植物図鑑」、「マジカメ」、「空ベツトボトル（おいしいお水をお土産に）」、「ヘッドランプ（暗くなっても安心、山小屋で便利）」、「本（山小屋で読書できる）」、「庄縮袋（ゴミ、濡らしたくないもの

等々）、「伸縮性テープ（膝痛で貼れる、登山靴の修理にも便利）」、「マップ（先の見えない部分がイメージ出来る）」、「携帯予備電池（電力を消費しやすく、なくなる事が多いから）」、「小銭（トイレが必要）」です。

A4 たくさんあります。御池のバリアフリー木道に身障者のお客様を案内したことや、尾瀬沼に落ちた親子を救出して感謝されたことがガイドをやっている嬉しかったですね。一方で強風の登山道で枝が落ちてきたり、残雪期の濃霧でヒバークして助かった事など個人的な登山中のハプニングも思い出に残っています。

A5 尾瀬認定ガイド協議会の認定審査委員長なので、優秀なガイド育成と認定ガイドの自立や活用の促進を図りたい。それによりお客様に「安全に尾瀬を楽しんでもらいたい」という事を目指しています。



[ガイドさんへの質問] Q1 尾瀬の楽しみ方、Q2 オススメの尾瀬スポット、Q3 尾瀬歩きに便利な道具・装備
Q4 思い出のエピソード、Q5 今後の抱負・目標

日本でも屈指の豪雪地帯の新潟県魚沼市。そんな魚沼で湯之谷商工会が、「地域資源×全国展開プロジェクト」事業の一環として「スノーシュー体験inゆのたに（以下ガイドツアー）」を開催して地域の魅力を紹介しています。このガイドツアーのガイドである奥只見郷ネイチャーガイドの今井正樹さんにお話を伺いました。

白

銀の魚沼へようこそ

「冬の魚沼エリアは積雪が多く大変なこともあります。まだまだ知られていない雪国ならではの魅力がたくさんあります。その中でも、白銀の世界を存分に楽しむことができるスノーシュートレックがオススメです」とガイドツアー出発前に話す今井さん。



▶出発前にスノーシューの使用方法を紹介する今井さん

「スノーシューという言葉を聞いたことがあっても、実際に体験したことがある人はまだまだ少ないのではないのでしょうか。その魅力を魚沼・湯之谷から広めていきたいと考えています。道具の特徴や使い方が案内しますので初めての方でも安心ですよ」と今井さんの明るい声が、これから始まるガイドツアーの期待を膨らませます。

ス

スノーシューの醍醐味

「スノーシュートレックの魅力は、普段は見ることが出来ない雪景色に出会えること、雪上に残された動物たちの足跡などのフィールドサインから自然の営みを知ることなど数知れません。さらにガイド付きのツアーであれば、安全安心はもちろんです。ガイドによる自然解説など格段に楽しさが増しますね」と今井さん。



▲今井さんの自然解説に耳を傾ける

「このガイドツアーは、スキー場を活用していて、リフトを使いスキー場の上から歩き始められるので、周辺の山々が見渡せる素晴らしい眺望を気軽に満喫できます」と今井さんは涸沢山(標高6333m)や上権現堂山(標高9877m)など周囲の山々を紹介してくれました。ガイドツアーは今井さんの自然解説を聞きながら、いざ、城山(標高3005m)山頂へ！



▲絶景の中を歩く(後方は涸沢山)

も

てなしの心

城山山頂に到着すると、魚沼丘陵と魚沼の街並みが一望でき、その圧倒的な開放感が心が躍ります。「このガイドツアーは、自然への理解を深めていただくきっかけにす

ることはもちろんですが、何より参加していただいた方々に「楽しい」という気持ちになってほしいと思っています。そのために、必ずコースを下見し、より安全に、楽しいガイドができるよう心掛けたり、おもてなしの心を大切にしています」と今井さん。参加者の多くは初めてのスノーシュー体験でしたが、ガイドツアー終了後の笑顔が、ツアーの満足感を表しているようでした。



▲城山山頂での今井さんのもてなしによるコーヒータイトム(右)
▲ガイドツアーを存分に楽しみ笑顔の参加者の皆さん(左)



「尾瀬の両生類あれこれ」

私が尾瀬にかかわったのは昭和30年夏、夏休みを利用して動物調査を兼ねて出かけたのが最初である。この時は大清水から三平峠越えで尾瀬沼へ行った。以後、戸倉く鳩待峠経由で出かけることが多い。平成19年7月には新たな国立公園指定もあり田代山・帝釈山を歩いてきた。出かけるのがだんだんきつくなっているが、観察会などで仲間と年一回程度出かけるように努めている。

今回の「尾瀬好日」では尾瀬の動物の中では普段話題にのぼりにくい両生類について、紙面の許される中で記してみよう。

その一 ツチガエル・モリアオガエル
平成19年8月上旬、数人のメンバーで観察に出かけた。山ノ鼻を過ぎ牛首分岐で一休みした。その時、メンバーの一人が近くの土の上を指して「あれ、カエルだ」。土の色に似せて殆ど目立たない一匹のツチガエルだった。カエルを見ながら小声で生態などの説明

を約10分。その間、カエルは以前のままの姿でじっとしていた。話し終わって皆さんに顔を戻すと「あ、逃げた」という声。「一緒に話を聞いていたみたいだねえ」の声になごやかな気分がひろがった。

ところで、このモリアオガエルは、繁殖期に訪れても姿はおろか特徴のある泡巣（卵塊のこと）も見えない。実は一般に知られている樹上産卵ではなく、池塘周辺にひろがる水草などに泡巣をつくるので目につきにくいのである。

その二 ハコネサンショウウオ（以下ハコネ）
川上川に流れ込む小さな沢には時折ハコネの幼生（ごども）を観察できることがある。幼生の形態でかなりの特徴とされるのは、黒い爪を持つことだが、全長3〜4cmの小さいものでも指先が黒く見える。拡大してみると猛禽類の爪のような凄まじい形をしている。溪流に生きる逞しさを垣間みることができる。ところが田代山の帰り途、立ち寄った売店で成体（親）の干物が袋に入れて売られていた。昔から子供の夜泣き薬として使用されていたという。サンショウウオも人間にかかってはいかんともし難いということか。

Vo. 11の本欄に栗田氏が「尾瀬は動植

物の宝庫・・・」と記している。財団ホームページにはカエル6種とあるが、私の記録では尾瀬地域全般で見ると両生類の生息種数は増えると思う。ともかく標高1400mにもなる地域に多くの種が生息することに驚きである。ちなみに群馬県の両生類は全部で18種、カエルは13種である。

特別保護地区としての制約の中で行動だが、尾瀬へ来られる人達は見・聞・嗅をフル回転させ十分味わってほしいものである。



▲田代山湿原（モリアオガエルの声が聞こえた）

「残雪からボランティアへ」

20年程前に、2月の奥日光、温泉とスキーの集いに山仲間誘われて参加し、初めてXC(クロスカントリー)スキーを履きました。それまでも春山が好きで、ハケ岳や尾瀬で残雪と春の陽光を楽しんできました。春山は天候の変化と腐れ雪との格闘ですが、このXCスキーを使用することで私の中で春の尾瀬が変わりました。

あれから20年、ゴールデンウィークは必ず尾瀬ヶ原と尾瀬沼を結ぶメインルートで春山を堪能しています。大量の残雪は、木道を埋め登山道を変え、無雪期には不可能なアングルで、私をますます「圧倒の尾瀬」に引き込みました。暖かい年は5月始めのミスバシヨウや雪の祠のザゼンソウ、寒さ厳しい年は氷点下20℃近くで朝日に輝くダイヤモンドダストにテントが包まれたりと年々の変化を感じ尾瀬の奥深さに魅了されてきました。



▲残雪期にXCスキーで尾瀬を楽しむ

それまで年間2〜3日の入山が10日くらいに増えてきました。2006年、2007年とゴールデンウィークの尾瀬ヶ原で、クマ調査を実施している尾瀬保護財団のスタッフの方に尾瀬のクマのお話を伺う機会があり、活動に興味を覚えました。そして、2007年の夏、渋沢温泉からの帰りの山ノ鼻で、ボランティアの方に声を掛けられたのがきっかけで2008年から尾瀬ボランティアに参加しました(その方は60代の穏和な紳士で、お名前を伺わなかった事が残念でなりません)。

初めての入山口啓発活動は鳩待峠で参加しました。群馬県内をはじめ埼玉県や千葉県から来られているボランティアもいました。2度目の入山口啓発活動は、どしゃ降りの鳩待峠でたった一人で行いました。早朝からの暴雨は、やがて山ノ鼻周辺で川が氾濫し、登山道が通行止めになりました。それらの情報は全て鳩待山荘からでした。続々と詰めかける入山者におおろと対応していましたが、鳩待山荘の方々のアドバイスを頂き、なんとか12時まで活動を続けることができました。

研究見本園は、大好きなエリアの一つです。尾瀬の風や匂いが一番強く感じられる様な気がします。IP研修を3日間にわたり受講したのも研究見本園が中心でした。軽井沢のNPO法人ピッキオを代表する桑田さんが2日間講師をされました。インタープリターに大事なことは、ウエルカムとサブライズがテーマと理解しています。今年も研究見本園でのミニガイドツアーに参加します。前回より、今回、今回より次回とスキルアップを心掛けています。45分位のツアーですが、最後に尾瀬のトイレや環境の説明を終えて拍手を頂いたり、笑顔と一緒に写真に収まったり、再会を約束したりと、楽しいボランティアを実践しています。

尾瀬ボランティア情報

このコーナーは尾瀬ボランティアに登
録されている方のためのページです。

●第15回尾瀬ボランティア総会を開催
しました

15回目の尾瀬ボランティア総会を3月5日に
群馬県前橋市
の群馬県民会
館ベイシア文
化ホールで開
催し、59名の
ボランティア
さんが参加し
ました。

総会に先立
つて、奥只見
郷ネイチャー
ガイドの桜井
昭吉さんにご
講演をいただ
き、「魚沼から行く尾瀬の歴史」と題し銀探掘
の歴史や秘境銀山平開拓、そこに住む人々の生
活から電源開発、そして尾瀬ルートの歴史と自
然など、本当に貴重なお話しをしていただきま
した。



▲ご講演いただいた桜井さん

総会では、東京都の長田八重子さんを議長に、
尾瀬保護財団から今年度の活動報告と平成23年
度の活動計
画を発表し
ました。
総会後は
交流会を行
い、ボラン
ティアさん
とスタッフ
が参加して
交流を深め
ました。



▲総会の議長をつとめた長田さんのあいさつ

○平成23年度尾瀬ボランティア活動計画

平成23年度の活動計画を先日開催された尾瀬
ボランティア総会で発表しました。活動初日は
5月21日(土)の鳩待峠と沿山峠で、10月23日
(日)の至仏山東面登山道の柵倒しまでシーズ
ンを通して現地での活動を行います。

活動計画はこの機関誌に同封していますの
で、ご確認ください。なお、活動計画の詳細や、
活動計画をお送りした後に決まった事項などに
ついては、機関誌や財団ホームページのボラン
ティアコーナーに随時掲載します。積極的なご
参加をよろしく願います。

「尾瀬カードをご存知ですか？」

尾瀬カードは信販会社が当財団と提携し、発行されている
「クレジットカード」の名称です。



オリエントコーポレーション



セディナ

このカードを利用された
場合、利用額の0.5%相
当額がカード会社から当
財団へ寄付され、尾瀬の
自然を守るための活動に
使われます。一般的に
“社会貢献カード”と呼
ばれています。

加入ご希望の方は、各クレジット会社あるいは尾瀬保護財団
「尾瀬カード」担当までお問い合わせください。

○第12回尾瀬フォーラムを開催しました

みんなの尾瀬をみんなで考えるために、平成22年12月17日に第12回尾瀬フォーラムを高崎シティギャラリーで開催しました。

昨年は生物多様性条約締約国会議（COP10）が日本で開催された年でしたので、「尾瀬の生物多様性〜貴重さ・魅力・その保全」を開催テーマに、群馬県尾瀬保護専門委員の大森宏先生に「尾瀬の植物相とその成り立ち」と題し講演いただき、続いて環境省の速水香奈自然保護官より尾瀬国立公園の二ホンジカ対策の経過と現状をお話いただきました。今回の尾瀬フォーラムを通じて、尾瀬が持つ生物多様性の貴重さや魅力を再認識し、また、それを守る取り組みとして注目されている二ホンジカ対策への理解も深めていただけたのではないのでしょうか。



▲大森先生の講演のようす

○尾瀬ガイドダンスを開催しました

尾瀬の活用について理解を深めていただくために、尾瀬保護財団と日本旅行業協会は尾瀬ツアーを企画している旅行会社や出版社を対象に、平成22年12月20日に東京都で、平成23年2月21日に大阪市で尾瀬ガイドダンスを開催しました。

ガイドダンスでは、尾瀬を訪れた方により充実した自然体験をしていただくために、尾瀬認定ガイドの紹介や尾瀬での過ごし方の提案をさせていただきました。また、2011年シーズンの尾瀬のトピックスなどツアー企画や冊子編集に必須のポイントを紹介しました。



▲尾瀬ガイドダンス（東京会場）のようす

○第15回NHK「わたしの尾瀬」写真展大阪展で尾瀬を紹介

尾瀬の魅力や貴重さを紹介するための「わたしの尾瀬」写真展を2月19日から2月27日までNHK大阪放送局アトリウムで開催しました。

お陰様で「わたしの尾瀬」写真展は今回で15回目を迎え、その記念として、これまで開催したことがなかった関西地区で開催したものです。開催期間中は週末を中心に、尾瀬保護財団スタッフによるスライドトークの他、尾瀬関係者によるジャンケン大会やガラボン抽選会など様々なイベントが開催されました。会場にお越しいただいた多くの来場者に、尾瀬の魅力はもちろん、尾瀬周辺地域のPRもできました。



▲スライドトーク（上）とガラボン抽選会（下）のようす



寄付のお願い

尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております。

当財団は、尾瀬において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を実施し、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与したいと思っております。

◆個人住民税の寄付金控除の対象に尾瀬保護財団が指定されました。

個人住民税の寄付金税制の拡充により、各都道府県・市区町村が条例で指定した法人に対する寄付が、住民税の控除対象となるようになりました。尾瀬保護財団は下記の県・市・町から指定を受けています。(財団への寄付を行った翌年1月1日にこれらの県・市・町にお住まいの個人が対象となります。)

福島県、群馬県にお住まいの寄付者：個人県民税

福島県富岡町、群馬県前橋市、群馬県高崎市、群馬県桐生市にお住まいの方：個人県民税と個人市民税・町民税

◆また、尾瀬保護財団は「特定公益増進法人」に指定されており、当財団への寄付は所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。

※なお、所得税、住民税控除の対象となる方には、領収書の送付時にご案内資料等をお送りしております。

◆企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、下記の制度があります。

種類	条件	特典
特別協賛寄付	3年に渡る毎年30万円以上の寄付、または一時の100万円以上の寄付	①財団機関誌、財団ホームページに企業等名称、ロゴマーク、メッセージを1年間掲載 ②尾瀬国立公園ロゴマークの取扱要領に基づき使用申請ができ、許可後は無償で1年間使用
協賛寄付	3年に渡る毎年10万円以上30万円未満の寄付、または一時の30万円以上100万円未満の寄付	①財団機関誌、財団ホームページに企業等名称を1年間掲載

■寄付につきましては、財団事務局（群馬県庁17階・027-220-4431）にご来訪いただくか、財団にご連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095
	福島銀行本店営業部	普通	0590088
	大東銀行福島支店	普通	1287138
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428
	東和銀行本店営業部	普通	0975531

新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大光銀行新潟支店	普通	0837334

特別協賛寄付者のご紹介

※寄付日順、敬称略



2011年2月25日寄付

ベイスィアグループ ベイスィアグループ様よりおよそ640万円のご寄付をいただきました。ベイスィアグループ様では、グリーン家電エコポイント及び住宅エコポイントの交換商品として商品券を提供しており、商品券交換金額の一定割合を、環境保全等を行っている団体等に寄付する制度のもとにご寄付いただいたものです。

2回目（通算寄付総額 8,348,847円）

寄付者からのメッセージ：ベイスィアグループは、「地域共生」を理念に自然環境保護にも積極的に取り組んでいます。今回の環境寄付に当たっては、当グループ発祥の地である群馬をはじめ、出店エリアの福島、新潟、栃木に広がる貴重な自然「尾瀬国立公園」の環境保全と適正利用を推進している尾瀬保護財団を選定させていただきました。群馬県が誇る豊かで美しい自然が、いつまでも多くの人々に楽しんでいただけることを、心より期待いたします。



2011年2月7日寄付

株式会社コメリ コメリ緑資金の会様より50万円のご寄付をいただきました。このご寄付は、ホームセンターを展開している株式会社コメリ様が、利益の1%を緑の育成の為に社会還元する目的で設立されたコメリ緑資金様より助成金としていただいたものです。今回で2回目のご寄付になり、来年度もご寄付いただくことになっています。2回目（通算寄付総額 1,000,000円）

寄付者からのメッセージ：「コメリ緑資金の会」は、日頃お世話になっている出店地域が美しい花や緑に囲まれ豊かであって欲しいと願い、平成2年より利益の1%を原資に助成活動を行なっています。尾瀬のかけがえのない自然遺産が、未来につながる次世代の子どもたちへと永遠に引き継がれることを願っています。



2011年1月13日寄付

アサヒビール株式会社群馬支社 47都道府県において、アサヒスーパードライ缶、ビン1本あたり1円を各都道府県の売上に応じて、環境関連等の団体に寄付するもので、平成22年春のキャンペーンに続く第4弾キャンペーンより565万円余のご寄付をいただきました。（通算寄付総額 20,377,574円）

寄付者からのメッセージ：アサヒビール(株)群馬支社では、地域との共生や社会貢献を目標に掲げ、2009年春より、アサヒスーパードライ「うまい!を明日へ!プロジェクト“尾瀬の環境保全活動”」をスタート。売上の一部を尾瀬保護財団へ寄付させていただいています。より多くの県民の皆様にご賛同をいただき、また、賛同いただくことで、県民の皆様とともに群馬県の環境保全を進めていきたいと考えています。群馬県の子供たちの未来のために、お役に立てただけなら幸いです。



第四銀行

2010年8月23日寄付

株式会社第四銀行 今年度は70万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額 3,387,253円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるため、今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四銀行はこれからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



新潟証券株式会社

2010年8月23日寄付

新潟証券株式会社 今年度は25万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額 1,202,792円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるために今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。新潟証券は第四銀行グループとして、これからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



東邦銀行

2010年6月11日寄付

株式会社東邦銀行 今年度は122万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額 4,598,931円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けることを目的として、当ファンドの販売・運用を通じて地域社会の発展に貢献するとともに、広く尾瀬の自然を愛する皆様と共に力を尽くしていく所存であります。今後とも積極的にCSR（企業の社会的責任）を重視して取組んで参ります。



群馬銀行

2010年6月14日寄付

株式会社群馬銀行 今年度は115万円余りをご寄付いただきました。（財団設立当初からの寄付を含め、通算寄付総額 23,143,158円）
寄付者からのメッセージ：信託報酬の一部が尾瀬保護財団への寄付となる仕組みの投資信託を取扱っており、多くのお客さまの善意の集大成を寄付させていただきました。趣旨にご賛同頂き投資信託をご購入頂いた全てのお客さまに深く感謝いたします。



2010年6月11日寄付

D I A Mアセットマネジメント株式会社 今年度は333万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額 14,229,735円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の美しく貴重な自然を後世に受け継ぐために今回の寄付金が有効に活用され、環境保全の一助となることを期待しております。DIAMはこれからも金融の仕組みを通じて、社会に貢献する資産運用会社を目指します。



2010年7月6日寄付

エース株式会社 エース株式会社様より30万円のご寄付をいただきました。このご寄付は、2010年夏より全国で販売している「アウトドアスポーツ」ブランドの売上の一部をご寄付いただいたものです。今回を含め、今後3年間に渡りご寄付いただくことになっています。（初回寄付）
寄付者からのメッセージ：バッグ&ラゲージメーカーのエース株式会社は、尾瀬の貴重な自然環境を守る環境保護活動に協力させていただきたいとの思いから、スポーツバッグブランド「アウトドアスポーツ」の商品売上の一部を尾瀬保護財団へ寄付させていただきました。今後も多くの人々が尾瀬の美しい自然を楽しみ、その自然遺産が後世まで守り続けられることを心より願っております。

協賛寄付者のご紹介

※寄付日順、敬称略

社団法人茶道裏千家淡交会
群馬県支部
2010年9月17日寄付

社団法人茶道裏千家淡交会 第43回関東地区大会の大会決議に基づき、尾瀬の自然保護のため役立ててほしいと、50万円をご寄付いただきました。（初回寄付）

株式会社福島銀行
2010年7月5日寄付

尾瀬の自然環境保護のため、52万円をご寄付いただきました。これは、販売されているエコ定期の残高の0.01%相当額をご寄付いただいたものです。（通算寄付総額 7,580,000円）

その他の寄付者のご紹介

※敬称略

吉田浩晴、小花光雄、鈴木輝夫、大全電機株式会社、セン・ミドル会、公孫会北魚支部、関本昇、片品山岳ガイド協会、尾瀬山小屋組合
群馬県電力関連産業労働組合総連合

イベント情報 ◆◆◆◆◆

2011新宿御苑みどりフェスタに出展します

- 開催日 平成23年4月29日（金）（昭和の日）
- 時間 午前9時～午後4時
- 会場 新宿御苑（東京都新宿区内藤町11）
- 内容 ・尾瀬に関するパネル展示
・尾瀬国立公園クイズコーナー など
- その他 入場無料（当日は新宿御苑が無料開放されます）

第15回NHK「わたしの尾瀬」写真展

- 【渋谷展】
- 開催期間 平成23年5月17日（火）～29日（日）
午前10時～午後6時（29日は午後4時まで）
- 会場 NHKみんなの広場ふれあいホールギャラリー
（東京都渋谷区神南町2-2-1）
- その他 入場無料

編集後記

お陰様で機関誌の編集担当、いや、編集長として3年目が終了しました。vol.5から今号まで12冊を発行する間、皆さんに楽しく読んでいただきたいとの想いから、いろいろ試行錯誤をしてきました。今後もみなさんと一緒にこの機関誌「はるかな尾瀬」を育てていけたらなあと思っています。（小）



尾瀬の三二観察 ⑫



ミズバショウの花

ミズバショウは白い苞の中の緑色の柱が花の穂だ、と植物学では教えられる。では花はどんな形だろう。

花は4つの緑色の花被片が、雄しべ4本と雌しべ1個を上下左右から包んでいて、菱形に見える。この花はまず、写真の左右の花のように、点のような雌しべの先を出して花粉を受ける。その後中央の花のように、下側の花被片の中に隠れていた雄しべが伸び出て、黄色い花粉を出す。翌日は上の雄しべ、次の日に左か右の雄しべ、最後に残りの雄しべがと、順に花粉を出す。

(フラワーエコロジスト 田中 肇)



『友の会』コーナー

「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援してくださる方々の集まりです。



年会費	○個人会員	1□ 2,000円
	○ユース会員（3月31日現在満22歳以下）	1□ 1,500円
	○家族会員（個人会員と同居の家族）	1□ 1,500円
	○賛助会員（団体・法人）	1□ 10,000円

☆友の会の会員期間は加入から1年です！

友の会の会員期間はご加入から1年間です。来シーズン尾瀬に行こうと考えられている方、いつ友の会に入られても、1年間フルに楽しんでいただけます。

★特典について

友の会に加入された方に次の特典をご提供させていただいております。

初回加入時：友の会会員バッチ進呈、各種資料送付

財団機関誌：年4回配布

宿泊割引：尾瀬戸倉、桧枝岐村周辺宿泊割引

（休日、祝祭日前等の除外日があります）

尾瀬周辺施設利用料割引等：対象施設等の詳細は、

尾瀬保護財団ホームページでご確認下さい。

※賛助会員の特典は財団機関誌の送付のみ



尾瀬保護財団

携帯サイト 情報配信中

緊急情報

お知らせ

ライブ映像

など

oze mobile